

強化プラ協など、超軽量水上飛行機向けFRPフロート商品化

【千葉】強化プラスチック協会(東京都千代田区、友廣祖雄会長)は水上飛行機開発事業協同組合(東京都新宿区、青木祐寿理事長)と共同で、水上飛行機に浮力を与える浮き(フロート)の実用化にめどをつけた。既存の陸上用の超軽量飛行機(ULP)に取り付け、海や湖での離着陸を可能にする。さびずに強度のあるガラスファイバー(GFRP)を素材に利用して高い耐久性を実現した。

まず秋にフロートを発売する予定で、3年後をめどにフロートを含めた機体全体にガラスファイバーを利用したULPの完成を目指す。産学連携で国産水上飛行機誕生に弾みをつける。同事業組合のメンバーが飛行機の設計開発や、市場調査などを行い、強化プラスチック協会内に設けた「FRP水上飛行機開発プロジェクト」が機体を製造する。下請けからの脱却を目指す中小企業や複合材料の用途拡大を図りたい繊維強化プラスチック(FRP)関係企業が得意技術を結集した。

フロートは1台70万円程度を想定。同事業組合員の飛洋航空機製造開発(東京都品川区)が生産する予定。飛行場周囲の周回用航空機であるULPはレジャー向けに国内に3000機ほどあるとされる。海外展開も視野に入れ、将来は共同出資会社の設立を構想する。

水上飛行機は滑走路がいない半面、機体が金属でさびやすくメンテナンスに手間がかかるという課題もあり、空港設備の発達で姿を消しつつある。一方、海洋国の日本では潜在的需要は大きく、関係者は離島への福祉や災害サービスにもつながると見ている。



水上飛行機開発プロジェクトは03年に東京都大田区の中小企業約10社で始動。06年に事業化をにらんで水上飛行機開発事業協同組合を発足した。

Copyright 2007 THE NIKKAN KOGYO SHIMBUN,LTD.
掲載記事の無断転載を禁じます